

# 外国人市民による日本語スピーチコンテスト — 上位2名の受賞者へ、インタビュー —



**最優秀賞**  
アルデーヴ アレクセイ さん  
【ロシア連邦出身】



**川崎商工会議所会頭賞**  
チャプマン ジャスミン ジャンティマー さん  
【英国・タイ王国出身】

2月7日(土)に「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。審査の結果、11か国16名によるスピーチの中から「最優秀賞」に選ばれたのはアルデーヴ アレクセイさん、「川崎商工会議所 会頭賞」に選ばれたのはチャプマン ジャスミン ジャンティマーさんでした。お二人へのインタビューをご覧ください。

## 質問

- ①日本語スピーチコンテストに参加した理由
- ②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
- ③スピーチをした感想
- ④将来の夢や今後の目標について

## スピーチ概要

### 「カタカナ再発見の旅」

来日して日本語の難しさに頭を抱えていた時、英語由来のカタカナは「砂漠のオアシス」でした。しかし、カタカナ英語だと思った「アナステージャ(麻酔)」は通じず、店員に言われて焦った「サービス」は有料ではなく無料の意味でした。そして次第にカタカナは「英語のコピー」ではなく、日本語の中でとても大切な役割を持つことがわかってきました。気持ちの表現(ワクワク)、短縮表現(コンビニ)、注目・強調の表現(持ち込みダメ!)。カタカナは日本語の奥深さを学ぶための「入り口」つまり「エントランス」だったのです。

- ①ある日、会社で耳にした会話「アジェンダをシェアしてエビデンスをもとにネクストステップをディスカッションしましょう!」。これは日本語か?英語か?カタカナの台風が吹き荒れる今の日本で、日本人にも外国人にもおもしろい話をきっかけに、日本語の魅力を発信したいと思い参加しました。
- ②歴史が好きで、中国から伝わった漢字をもとにカタカナが生まれた過程に興味を持ちました。音読み、訓読みをはじめ、日本語には歴史を背景とした奥深さがあります。私たちの生活に合わせて形を変えていくカタカナの柔軟さもそのひとつです。「英語のコピー」ではなかった「再発見の旅」というテーマのもと、カタカナのすばらしさを伝えたいと思いました。
- ③緊張しましたが、繰り返し練習した成果を出せました。表彰式の後の記念撮影で、自分が真ん中に座っているのが信じられなかったです。
- ④ずっと日本に住み続けたいという気持ちがあります。今後、仕事をしながら日本でボランティア活動もしたいです。

◎これから日本語を勉強したいと思っているひとへ  
川崎には地域ごとに、日本語を学べるボランティアの教室が多くあります。まずはそのような場に参加して、地域の人と交流しながら学ぶのがおすすめです。同じ地域に住む人とは共通の話題も多く、コミュニケーションを取りやすいと思います。

## スピーチを聞いて、取材して一言

カタカナを取り上げた、アレクセイさんの着眼点が秀逸でした。カタカナとは単なる外来語の表記にとどまらず、生活を便利に、そして、表現に彩りを与える表記でもあることに気づかされました。もしカタカナがなかったら、日本語はもっととっつきにくく、退屈だったかもしれません。アレクセイさんの日本語愛に敬服しました。  
(取材・文:編集ボランティア 水野 裕子)

## スピーチ概要

### 「糸を探しながら、にゃんとします」

英国には古くから「好奇心は猫を殺す」ということわざがあります。「深入りすると危険だ」という意味で使われますが、社会が進歩してスマホやタブレットができてから人間関係も変わり、直接は他人と話さないという人も増えてきました。でも、誰にも繋がらない人生は猫(みたいな私)に小判、意味がありません。ご縁を繋ぐ糸を探して、いろんな人と繋がっていきたく思います。外国人も日本人も少しずつ自分を表して、お互いと繋がって欲しいと思っています。好奇心と心配りの気持ちを持って、「糸」を探し続けます。

- ①英国で中学生の時に「日本語スピーチコンテスト」にチャレンジしたのですが、選考されませんでした。今、日本に来て、手話や動画作成、ポランティアなど、いろいろなものにチャレンジしています。その一つとして、再び「コンテスト」にチャレンジしようと申し込みました。今は就職活動中でそちらも心配ですが、今日、スピーチできて良かったです。チャレンジすることで世界や人との繋がりが広がって、楽しいです。
- ②人との繋がりについて興味があります。心理的な面を猫と糸を使ってお話したいと思いました。
- ◎言葉や絵を次々にフリップで見せる手法は面白かったですね。わかりやすくする工夫を考えていて、今朝、思い付いて慌てて描きました(笑)。上手くできるか、ドキドキしました。川崎市の「御紋むすび」(注)を描けなかったのは残念です。
- ③「忘れた文章があったかな、抜けてないかな」と気になっています。でも、皆さんに笑っていただけて、場もなごんでほっとしました。
- ④大きな夢は親切な世界を創ることです。つらいことがあっても、周りの人が助けてあげられる世界です。そして、個人的に叶えたい夢は起業することです。ある聴覚障がいの方との出会いがきっかけで、補聴器を中心とした精密機器の会社を起業したいと思うようになりました。  
(注)江戸時代、徳川吉宗一行が川崎宿に宿泊した際、一行に振る舞うおむすびを三角形に握り、丸い盆に三つずつ並べたのを「葵の御紋」に見立てたもの。

## スピーチを聞いて、取材して一言

ユニークなタイトルに自作のフリップ、言葉でも目でも楽しませてくれるスピーチでした。穏やかな語り口ですが、そこに内に秘めた熱量を感じました。インタビューでは、いろいろなことに興味を持ってチャレンジしていく逞しさと人との繋がりを大切にしている人柄が伝わってきて、思わず応援したくなりました。  
(取材・文:編集ボランティア 湯澤 英子)



川崎ライオンズクラブ優秀賞

ラマサミ ビジャヤラガバンさん

【インド共和国】



「文化の違いが人生をもっとおもしろくする」

皆さんは外国へ行ったり、外国人と話したりをするときに「アレ?」と  
思ったことはありませんか?私は日本で生活する中で、文化の違いが人生  
をもっとおもしろくしてくれど感じるようになりました。電車の中の静  
けさ、数を指で表す方法や挨拶の違いなどに最初は驚きましたが、その  
「びっくり」や「まちがい」が人生をカラフルにしてくれると思います。イン  
ドと日本では食文化も違いますが、だからこそ、新しい味に出会うことが  
できます。こうした文化の違いは怖いものではなく、人生を面白くしてく  
れる宝物だと思っています。



川崎国際交流協会優秀賞

グエン ティ トウ フォンさん

【ベトナム社会主義共和国】



「まずは一歩、自分の足で」

みなさん、自分の進む道を自分で選んでいますか?私は日本にいる姉の  
サポートで留学できましたが、現実には厳しく、挫折し、夜の公園で一人泣き  
ました。その時気づいたのです。自分で考え、自分で選ぶことが大切なんだ  
と。その矢先、首にしこりを見つけ、急遽帰国し、不安な日々を過ごしまし  
た。幸い経過観察となり、再び日本で勉強をしています。目標とする仕事に  
私が向いているかどうかはわからない。でも、「飛べるかどうかは、飛んで  
みないとわからない!」。これからは自分の心で、自分の足で、自分の道を  
進んでいこうと思っています。



努力賞

趙 陸秋さん

【中華人民共和国】



「日本の女子高生になりたい」

もし生まれ変わるとしたら、私は日本の女子高生になりたいです。私は  
中国の海から一番遠い寒い場所で生まれ育ちました。小学生の頃から日  
本のアニメを見ていましたが、そこに登場する女子高生たちは私にとって  
眩しい存在でした。やりたいことを探る姿、好きなことに全力でぶつかる勇  
気を見て、いつか私も自分なりの道を少しずつ広げていきたいと思ってい  
ました。一昨年に日本に来て、ひとりぼっちだと感じる時やうまくいかない  
ことが何度もありましたが、アニメの女子高生のように何度も立ち上がっ  
て一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。

第31回

# 外国人市民 日本語スピー

## 出場者全員のスピーチの概



努力賞

カンデル スシラさん

【ネパール】



「日本で生きるということ」

ネパールにいた頃は、家畜の世話をしたり、牧草を刈り入れたりして、「将  
来、どう生きたいか」を考える機会はありませんでした。中学2年の時に日  
本に来て、少しずつ未来のことを考えるようになりました。最初は日本語が  
まったくわかりませんでしたが、今では日本語で考え、日本語で話すことが  
できるようになり、高校生として勉強にもアルバイトにも挑戦できていま  
す。今は「将来、人の役に立つ看護師になりたい」と思い、将来、働くための  
在留資格を得られるように努力しています。これからもたくさんの不安や  
悩みに向き合いながら、日本で家族と一緒に生きていきたいと思っています。



努力賞

パンニピティ アッチゲドン プッディ アヌラ-ダさん

【スリランカ民主社会主義共和国】



「自分の国の素敵なところ」

スリランカでは1983年から2009年まで内戦状態でした。私には内戦  
の記憶はほとんどありませんが、大人たちの不安な表情や夜の爆発音は覚  
えています。2020年からは経済が悪化し、物価高で人々の生活は苦しく  
なりました。それでも母はいつも笑顔で「希望を捨てないことが大事」と教  
えてくれました。この20年間、苦しみも希望も経験しましたが、スリランカ  
の人々は助け合い、何度も立ち上がってきました。この強さこそ、この国の  
美しさだと思います。私はこれからもスリランカのために自分にできること  
をやらせてもらおうと思っています。



努力賞

ヘラット アラッチ ルシニ ハンサニさん

【スリランカ民主社会主義共和国】



「日本でびっくりしたこと」

日本に来てびっくりしたことが2つあります。一つは挨拶です。毎日、どこ  
へ行っても「おはようございます」「いらっしゃいませ」「ありがとうございます  
」と挨拶を耳にします。私は相手への感謝と尊敬の気持ちを表している  
日本の挨拶の習慣をスリランカへ持って帰りたいです。もう一つはゴミの  
分別です。燃えるゴミ・燃えないゴミなどに分けることで、日本の街は美し  
いのだと思いました。私が来日した時、スリランカではまだ分別をしていま  
せんでしたが、今は取り入れ始めています。日本のゴミを分別する方法も持  
ち帰り、一人一人が分別を継続することで、スリランカがよりきれいな国に  
なることを願っています。



努力賞

ザン イー ナウンさん

【ミャンマー連邦共和国】



「言語から繋がった社会・機会」

みなさんは今の社会はどのようにしてできたか、考えたことはありません  
か?日本に来て、半年くらい経った頃、自分の社会を分析してみると、パイ  
ト先は友達を紹介してくれて、学校はミャンマーの学校が紹介してくれたと  
いう風に、自分で作った社会ではありませんでした。それで、日本語をもっ  
と勉強したら、自分の社会を広げることができると考えました。言語は単  
なる道具ではなく、言語ができれば人間関係が生まれ、社会を作ることがで  
き、その中でいろいろな機会が出てくるのがわかりました。

川崎ライオンズクラブ特別賞

ウィーラシンヘ プッディカ サシンドウ ベレラさん  
【スリランカ民主主義共和国】



「あきらめない心が、私を変えた」

私は高校生の時、200M走でスリランカで一番になりました。それまで「もう無理だ」と何度も思いましたが、あきらめない心が私を強くしてくれました。この経験が日本語の勉強にも役立ち、「もうやめたい」と思った時も、「転んでも立ち上がればよい」とあきらめずにがんばることができました。留学生活は一人暮らしへの挑戦でもあります。ご飯を焦がしたり、洗濯で服を小さくしたりと失敗が続きますが、「できないことをできるようにする」を目標にがんばりました。「あきらめない心」でこれからも夢に向かっていきます。

◎スピーチコンテストは  
ここから動画で見ることが  
できます。



# による ーチコンテスト

## 概要をご紹介します

司会の神保リベスさん(左、フィリピン出身)と  
李 韋さん(右、中国出身)



努力賞

ニン ヌエウーさん  
【ミャンマー連邦共和国】



「私の心に残る場所—宮崎台」

私はソフトウェア・エンジニアとして働くために来日しましたが、当時はコロナ禍で、言葉の壁にも戸惑い、不安な毎日を過ごしていました。その後、転職をきっかけに宮崎台に引っ越しました。最初はいつも小さな緊張がありましたが、季節の移り変わりを教えてくれる景色や駅前の店員さんのやさしい笑顔が、私を安心させてくれました。宮崎台は坂が多い町なので最初はたいへんでしたが、「千里の道も一歩から」ということわざ通り、一歩ずつ進むことの大切さを教えてくれました。いつか自分の国に帰る日が来ても、この町は私の心の中だとずっと生き続けたいと思います。

努力賞

ピライマニーボン センターバンさん  
【ラオス人民民主共和国】



「道しるべのない世界」

みなさんは迷子になったことがありますか？私たちの人生は道しるべのない世界なので、時々迷子になることがあると思います。私も日本語を学びはじめた時、迷子になりました。日本語を学ぶことで将来の目標を見つけられるか不安になったのです。でも、日本語を学んでいる先輩を励みにがんばりました。また、日本語とフランス語が全く違っていることに気づき、壁にぶつかりましたが、いろいろ挑戦して、「自分で考えて工夫する力」や「学び方のコツや、理解の仕方」を身につけたので、日本語を覚えることができました。迷子になることで学び、新しいものを見つけ、自分をよく理解できるのだと思いました。

川崎国際交流協会特別賞

ジャイン スリシテイさん  
【インド共和国】



「私の心の中の『おくびょうなカーレックくん』」

私はアニメの「臆病なカーレック(勇氣)くん」が好き。この犬はあらゆるものを怖がるのに、大切な人を守る方法を見つけるのです。私は昔から犬が怖いけど、犬が好き。大学時代、寮にいた時の犬は悪夢でした。彼との初デートの帰り道、私たちを追いかけたのです。彼は私をおいて逃げていき、私はその瞬間「この人だ」と確信して私たちは結婚しました。カーレックくんが「愛は恐怖よりも大きい」と教えてくれたから、私の愛が恐怖に打ち勝ち、犬を抱きしめて可愛がる日が来ることを願っています。

努力賞

リエウ ティ ゴック アインさん  
【ベトナム社会主義共和国】



「日本での夢と成長」

私は昨年5月から日本語の勉強を始めました。最初は授業についていけず、「本当に日本へ行けるのだろうか」と不安になったし、先生からも厳しく注意されましたが、それは先生が私に「夢を叶えて欲しい」という思いがあったからです。日本に来てからも、家族と離れて生活することは大きな試練で、何度も涙を流したことがあります。でも、私はただの実習生で終わりたいではありません。お客様や同僚、上司にも信頼される存在になりたいです。「夢は勇気を出して一歩を踏み出した時に本当に始まる」という言葉を胸に、これからも日本で挑戦していきます。

努力賞

レン キムさん  
【カンボジア王国】



「特別な理由はいりません」

私が日本語を学び始めた理由はたった一つ「アニメが好きだったから」。カンボジアでは、医者や弁護士といった給料が高い職業につけるような専門を選ぶことを両親は期待します。明確な理由がないのに日本語を勉強したいと言ったら、ほとんどの両親は同意してくれません。それでも私は勉強を始めて、大学2年生の時に日本語コンテストに入賞し、さらにその翌年には日本への留学プログラムの選考にも合格して、日本に来ることができました。やりたいことに「特別な理由」はいりません。皆さんもやりたいことをやりましょう。

努力賞

ロガナタン ガルツピアさん  
【インド共和国】



「私の日本での生活とインドと日本の文化の違い」

朝ごはんの納豆など、日本の食べ物はシンプルで健康的です。インドの料理はスパイスが多く、味がにぎやかです。私は両方が大好きです。日本は電車も会議も約束も正確で、時間を大切に生活だと感じています。インドはゆっくりしていて、時間にやわらかい文化です。日本は電車で静かにしたり、ごみを分けたり、たくさんルールがありますが、インドは自由にぎやかです。文化の違いはありますが、人々は親切で、日本で暮らせてよかったと思います。日本を学んで、毎日を楽しみたいです。